

# OA方針成果普及タスクフォース 2017年度活動

---

2018年3月14日  
JPCOAR総会

報告者：TF主査 島 文子  
(北海道大学附属図書館)



# OA方針策定ガイド・リンク集の目的

- 論文のオープンアクセスを推進するため、
- 各大学のオープンアクセス方針策定支援や
- ポリシー策定後の実施支援を行う。

(2016年度論文OA-TFの目的から)

# OA方針策定支援:ガイド初版の作成経緯

(論文OA-TF)

【当初目標】OA方針の雛形を完成し、公表する

【作業活動】OA方針策定済大学のワークフローを分析

【目標の修正】OA方針策定の全体像が判る支援ツールを作成する

【活動成果】OA方針策定ガイド・リンク集の作成・公開 2017年3月

# OA方針策定ガイド初版の構成

- はじめに
- 第1章 OA方針の策定・実施
- 第2章 OA方針の構成要素
- 付録1 実施計画例
- 付録2 OA方針雛形
- 付録3 オープンアクセスとは
- 付録4 ROARMAPの登録手順

※Word形式  
でも公開

## ①OA方針とは何か：全体像がわかる

- 方針の構成要素や記載例
- 方針の雛形

## ②方針策定の進め方がわかる

- 実施計画や策定手順の事例
- 教員等への説明資料の雛形
- 策定後の周知方法のマニュアル

# 第1章 OA方針の策定・実施

- OA方針の策定・実施のプロセスを5段階に分けて解説
  1. OA方針実施計画
  2. OA方針の設計、採択
  3. OA方針認知度向上
  4. OA方針を実施する
  5. フォローアップ

## 第2章 OA方針の構成要素

- OA方針の条文として記載すべき内容や、事前に検討すべき事項を示す

### 第2章 OA方針の構成要素

方針策定にあたって検討し、記載すべき構成要素を示す。(付録2「OA方針雛形」参照)

OA方針の構成要素		内容	記入例
第1条 『趣旨』	趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OA方針を作成する趣旨について記載する。 (付録3「オープンアクセスとは」参照)</li> </ul>	
第2条 『研究成果の公開』	対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象者について記載する。</li> <li>• 対象となる教員の範囲については、OA方針に記載してもよいし、「OA方針実施要領」やFAQページ等</li> </ul>	「本学に在籍する教員」「本学に在籍する教職員」「本学に在籍する役員及び教員」等

# 付録1


## 実施計画例

- OA方針を策定する際の大まかなスケジュールを示す

1. 計画
2. 方針案作成・策定
3. プロモーション  
・認知向上
4. 実施
5. フォローアップ

付録1. 実施計画例

### 実施計画例



フェーズ1 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討プロジェクト立上げ</li> <li>・他機関のOA方針の研究</li> <li>・運用体制の確認(人員&amp;技術面)</li> <li>・策定・実施計画の作成</li> </ul>	1~2か月
フェーズ2 方針案作成・ 策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方針案, 説明文書の作成</li> <li>・図書館委員会, キーパーソンへの説明</li> <li>・教員のコメント受付</li> <li>・方針の承認</li> </ul>	1~3か月
フェーズ3 プロモーション・ 認知向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数媒体による学内周知</li> <li>・教員向け説明会の開催</li> <li>・プレスリリースの発行</li> <li>・ROARMAPへの登録</li> </ul>	1~3か月
フェーズ4 実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方針の実施</li> <li>・実施要領の作成, 学内周知</li> <li>・教員向けのFAQや登録サポート</li> </ul>	1~3か月
フェーズ5 フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用統計の作成</li> <li>・対象論文の捕捉と登録の呼びかけ</li> <li>・モニタリング, 上層部への情報提供</li> </ul>	継続

(The OpenAIRE guide for research institutions を元に作成)

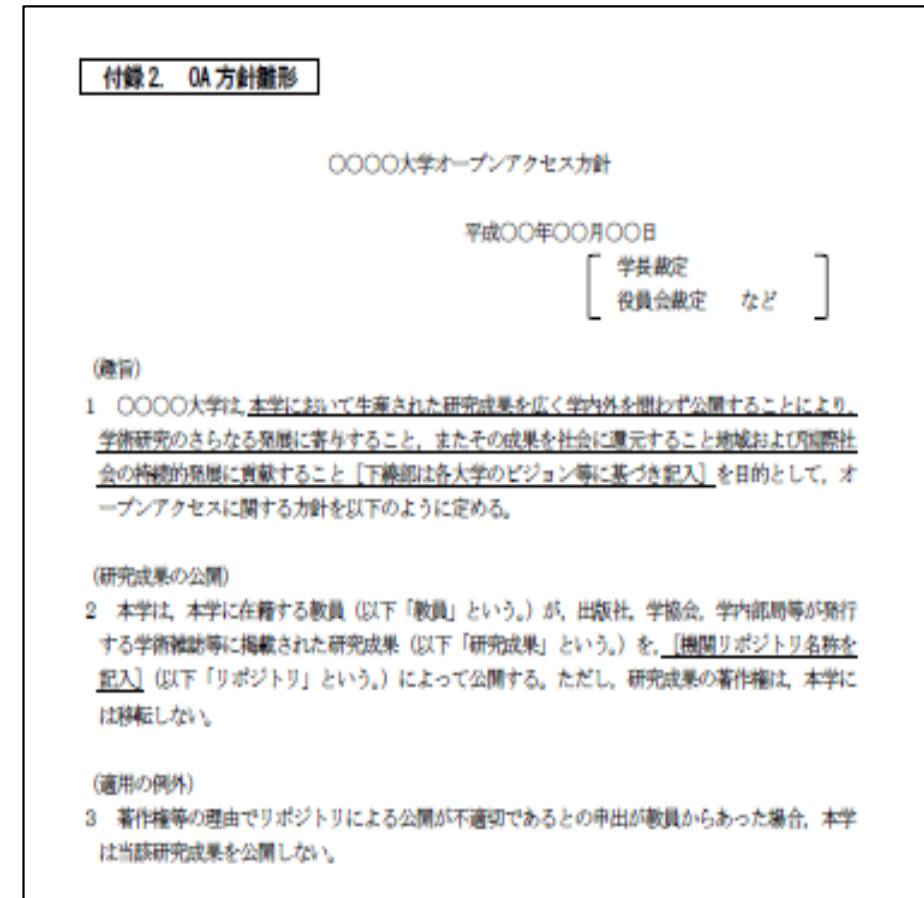


# 付録2

## OA方針雛形

- OA方針の文例を示す

- 第1条 趣旨
- 第2条 研究成果の公開
- 第3条 適用の例外
- 第4条 適用の不遡及
- 第5条 リポジトリへの登録
- 第6条 その他



# 付録3 オープンアクセスとは

- OA方針を教員等に説明する際の資料の文例を示す
- OAの定義、背景
- OAの手段
- 機関リポジトリ（によるグリーンOA推進）の意義
- 国内外のOA方針策定状況

## 付録3. オープンアクセスとは

オープンアクセス (OA) とは

### 1. OA の定義

学術情報（学術雑誌論文、会議発表論文、図書等）が OA であるとは、当該情報がインターネット上で公開され、無料で閲覧（フリーアクセス）を含めた自由な利用が可能になっている状態を指す。

### 2. OA の背景

元々 OA 運動は、20 世紀後半からの学術雑誌価格高騰問題を背景に、商業出版社への対抗を目的として始まった。世界中の大学等は機関リポジトリを設置してグリーン OA（後述）を推進してきたが、研究者の作業負担を必要とするセルフアーカイブは十分には進んでいないと言える。一方、2000 年代中盤以降は商業出版社も Article Processing Charge（APC）支払い型のビジネスモデルを確立させ、ゴールド OA（後述）に対して積極的な姿勢を見せている。近年は、公的資金によって得られた研究成果に対して納税者や産業界が容易にアクセスできるようにすること等を目的として、世界中の研究機関・政府機関・助成機関で OA ポリシーの策定が行われている。

### 3. OA の手段

OA を実現するための手段には以下の 2 種類がある。

	①グリーン OA	②ゴールド OA
手段	著者自身が、機関リポジトリやサブジェクトリポジトリ等の OA リポジトリに登録する（セルフアーカイブ）。	出版社が、OA ジャーナル等を出版する。
メリット	著者の費用負担がない。	出版後即座にオープンアクセスになる。

# 付録4

## ROARMAPの登録手順

- ROARMAP

<http://roarmap.eprints.org/>

世界のOA方針を集めたDB

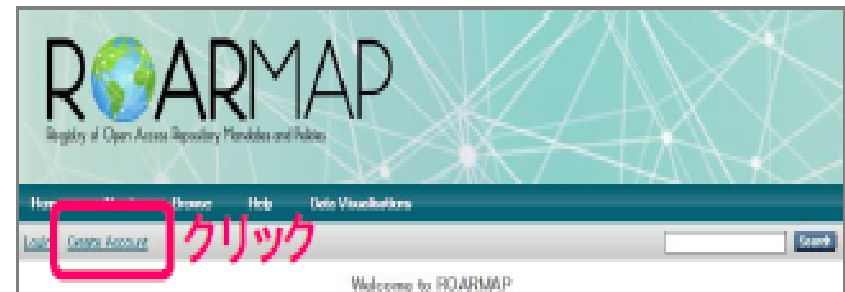
- ROARMAPへの登録の  
際のマニュアル

### 付録4. ROARMAPの登録手順

#### 1. ROARMAP アカウント作成手順

世界中の機関リポジトリ登録方針を収集しているサイト「ROARMAP (ロアマップ: Registry of open access repository mandates and policies)」に情報を登録するためのアカウントを作成する手順です。

1. ROARMAP ホームページ (<http://roarmap.eprints.org/>) 画面上上の[ Create Account ]をクリック



2. [ Create Account ] 画面で必要事項を入力し、[ Register ] ボタンを押下

# オープンアクセス方針リンク集

J P C O A R  
オープンアクセスリポジトリ推進協会

概要 About 組織 Organization 参加機関 Members 参加申込 Join us

事業計画 事業報告 Project 各種資料 Publication

オープンアクセス方針・実施要領 リンク集

オープンアクセス方針・実施要領 リンク集 (2017.4.5.現在 15件 / 50音順)

府立大学: [公立大学法人大阪府立大学オープンアクセス方針 英語版 / 実施要領](#)

大学: [岡山大学学術成果リポジトリ登録要項](#)

大学: [京都大学オープンアクセス方針 英語版 / 実施要領 / ROARMAP](#)

・九州大学: [九州大学オープンアクセス方針 英語版 / 実施要領 / ROARMAP](#)

・神戸大学: [神戸大学オープンアクセス方針](#)

・国際日本文化研究センター: [国際日本文化研究センターオープンアクセス方針](#)

大学: [千葉大学オープンアクセス方針](#)

大学: [筑波大学オープンアクセス方針](#)

外国語大学: [オープンアクセス宣言・](#)

歯科大学: [東京歯科大学オープンアクセ](#)

大学: [徳島大学におけるオープンアクセ](#)

屋工業大学: [名古屋工業大学学術機関リ](#)

名古屋大学: [名古屋大学オープンアクセス](#)

・北海道大学: [北海道大学学術成果コレクション](#)

・北陸先端科学技術大学院大学: [JAIST学術研究成果リポジトリ登録要領 英語版](#)

リポジトリ運営担当者の皆様へ:  
オープンアクセス方針を策定されましたら、「機関名(日・英)」「OA方針名(日・英)」「公開先URL(OA方針、実施要領、

OA方針を策定したら  
JPCOARにお知らせ  
ください！

2018年度から  
広報普及作業部会が  
維持管理します

## ③方針の策定事例を調べる

- ・ 各機関の方針名称(日本語)とリンク
- ・ 英語版、実施要領、ROARMAPのリンク

URL : [https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=53](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53)

# OA実施支援:ガイド改訂版の作成経緯

(OA方針成果普及TF)

【当初目標】OA方針策定済み大学におけるワークフローを調査し、結果を公表する

【作業活動】OA方針策定済大学へのアンケート調査を実施、報告書公開  
2018年2月

【目標の修正】具体的な課題や運用に即してOA方針策定ガイドを改訂する

【活動成果】OA方針策定ガイド改訂版の作成・公開 2018年3月

# オープンアクセス方針策定ガイド改訂版

- JPCOARサイトで公開  
(2018.3.5.)

URL:

<http://id.nii.ac.jp/1458/000000043/>

※CCライセンスを明示

※目次を追加

J P C O A R  
オープンアクセスリポジトリ推進協会  
オープンアクセス方針策定ガイド



本文



付録1~3



付録4

2018年2月改訂

オープンアクセスリポジトリ推進協会

OA 方針成果普及タスクフォース

# 改訂版の構成

- はじめに
- 第1章 OA方針の策定・実施
- 第2章 OA方針の構成要素
- 付録1 実施計画例
- 付録2 OA方針雛形
- 付録3 オープンアクセスとは
- 付録4 ROARMAPの登録手順

※Word形式  
でも公開

※構成は初版と変更なし

## 改訂の視点

- オープンアクセス方針策定機関実態調査に基づく改訂
- 既に策定されたOA方針やその機関における運用を分析
- 方針策定前に検討しておくべき事項を追加・修正
- 図書館総合展ポスターセッションでの実務担当者からの要望等も追加



# オープンアクセス方針策定機関実態調査

- 「オープンアクセス方針策定機関実態調査報告書」を公開（2018.2.22）  
URL: <http://id.nii.ac.jp/1458/00000042/>
- 目的: 方針策定過程や運用の実態を把握し、より実践的なガイドへ充実させる
- 調査期間: 2017年10月17日～11月17日
- 調査対象: オープンアクセス方針策定済の機関
- 回答数: 14機関

## 調査結果(1)方針策定過程

### 調査内容

- 手続きを主に担った組織は？
- 事前に働きかけをした人や部署(部局)は？
- 課題となった点や苦勞した点は？それを克服した方法は？

### 調査結果

- 方針策定時のキーパーソンは図書館長
- 図書館長は現場担当者からの最初の働きかけ先

### ガイドの改訂ポイント

**図書館長がキーパーソン!**

# ガイドの改訂内容(1)方針策定過程



- 図書館長等を方針策定のキーパーソンと位置づけることを勧める記述を追加

## 第1章

- 1.2. 実施計画の作成

(改訂版追加)・・・ 図書館長や研究担当理事等をOA方針策定のキーパーソンと位置づけ、実施計画の段階から、OAの意義や方針策定の効果等について説明し、推進者となってもらう。

- 2.3. 採択までのアドボカシー

(初版の記述)・・・機関の管理部門やキーパーソンにも説明を行う。

(改訂版修正)・・・教員や機関の管理部門に対しては、キーパーソン(図書館長、研究担当理事等)から説明するなど、直接的な働きかけを行う。

## 調査結果(2)方針の内容

### 調査内容

- 方針の対象者は？
- 方針に業績評価を記載？
- 方針を順守しない場合のペナルティは記載？
- ゴールドOA論文はリポジトリ登録？メタデータのみ？本文も？

### 調査結果

- 二つの方向がある
- 成果物の公開場所を機関リポジトリへ集約し、ゴールドOA等の論文も登録する方針
- OA化されていること自体を重視し、機関リポジトリへの登録は原則としない方針

### ガイドの改訂ポイント

**最初にOAの実現方向を検討**

## ガイドの改訂内容(2)方針の内容



- 検討事項として、コンテンツの公開先を、機関リポジトリとするか、ゴールドOAや外部リポジトリも含むかを追加
  - 第1章 2.1. OA方針案の構成要素の検討  
(改訂版追加) (4) コンテンツの公開先
  - 付録2.(OA方針雛形)  
(改訂版追加)例1:機関リポジトリを公開先とする場合  
例2:ゴールドOA、外部機関のリポジトリを含む場合
  - 付録3.(オープンアクセスとは)  
(改訂版追加)5.OA推進の意義

## 調査結果(3)方針の運用

### 調査内容

- 免除申請には理由が必要？著者本人の希望も可？
- 免除論文の書誌事項の管理は誰が？ダークアーカイブは？
- エンバーゴ論文の期間の管理は誰が？データ提供はいつ？
- 出版社の著作権ポリシーの確認は誰が？
- その他の負担軽減方策は？

### 調査結果

- 策定前に検討しておくべき課題
- 免除申請理由の要不要
- 免除論文の書誌事項の管理者、ダークアーカイブの有無
- エンバーゴ期間の管理者、データ提供時期
- 出版社の著作権ポリシー確認者
- その他の負担軽減方策

### ガイドの改訂ポイント

**具体的な運用方法の事前検討が重要**

## ガイドの改訂内容(3)方針の運用



- 検討事項として、登録の免除申請の理由を必要とするか、理由を公開するか、登録可能な版や著作権ポリシーの確認を教員と図書館のどちらが担当するかを追加

### 第2章

- 第3条『適用の例外』: 免除規定

・・・また、以下については検討のうえ、「OA方針実施要領」やFAQページに記載する。  
(改訂版追加)(5) 免除申請の理由を必要とすること。その理由を公開すること。

- 第5条『リポジトリへの登録』: 登録する版

(改訂版追加)・登録可能な版や著作権ポリシーの確認を教員と図書館のどちらが担当するかについて検討し、「OA方針実施要領」やFAQページに記載する。

## 調査結果(4)策定後の取り組み・評価

### 調査内容

- 策定後の学内の研究者への働きかけは？
- 策定による体制等を含めた業務に変化は？
- 策定によるよかった点は？
- 問題点や課題は？

### 調査結果

- 担当者の業務負担が増えた
- 業務の見直しや効率化に繋がり、コンテンツ数が増加した
- リポジトリ業務の機関内での重要度やプレゼンスが高まった
- 策定後も方針の周知や理解を深める必要がある
- 方針策定はゴールではない

### ガイドの改訂ポイント

**方針策定がスタート地点**



## ガイドの改訂内容(4)策定後の取り組み・評価



- 方針対象者への説明資料(付録3:オープンアクセスとは)の国内外の状況を更新、OAの新たな動きを追加

### 付録3.(オープンアクセスとは)

- 5. 機関リポジトリ(によるグリーンOA推進)の意義

(改訂版追加)・・・近年、一部の出版社のウェブサイトで出版社が提供する著者最終稿が公開されるサービスも開始されたが、利用料金の長期的な見通しは未だ不透明である。また、学術雑誌論文以外の学術情報では、OAのビジネスモデルが確立していないこともある。

- 6. 国外のOAポリシー策定状況

(初版の記述) 2017年1月末時点

(改訂版修正) 2018年1月末時点

- 7. 国内のOAポリシー策定状況

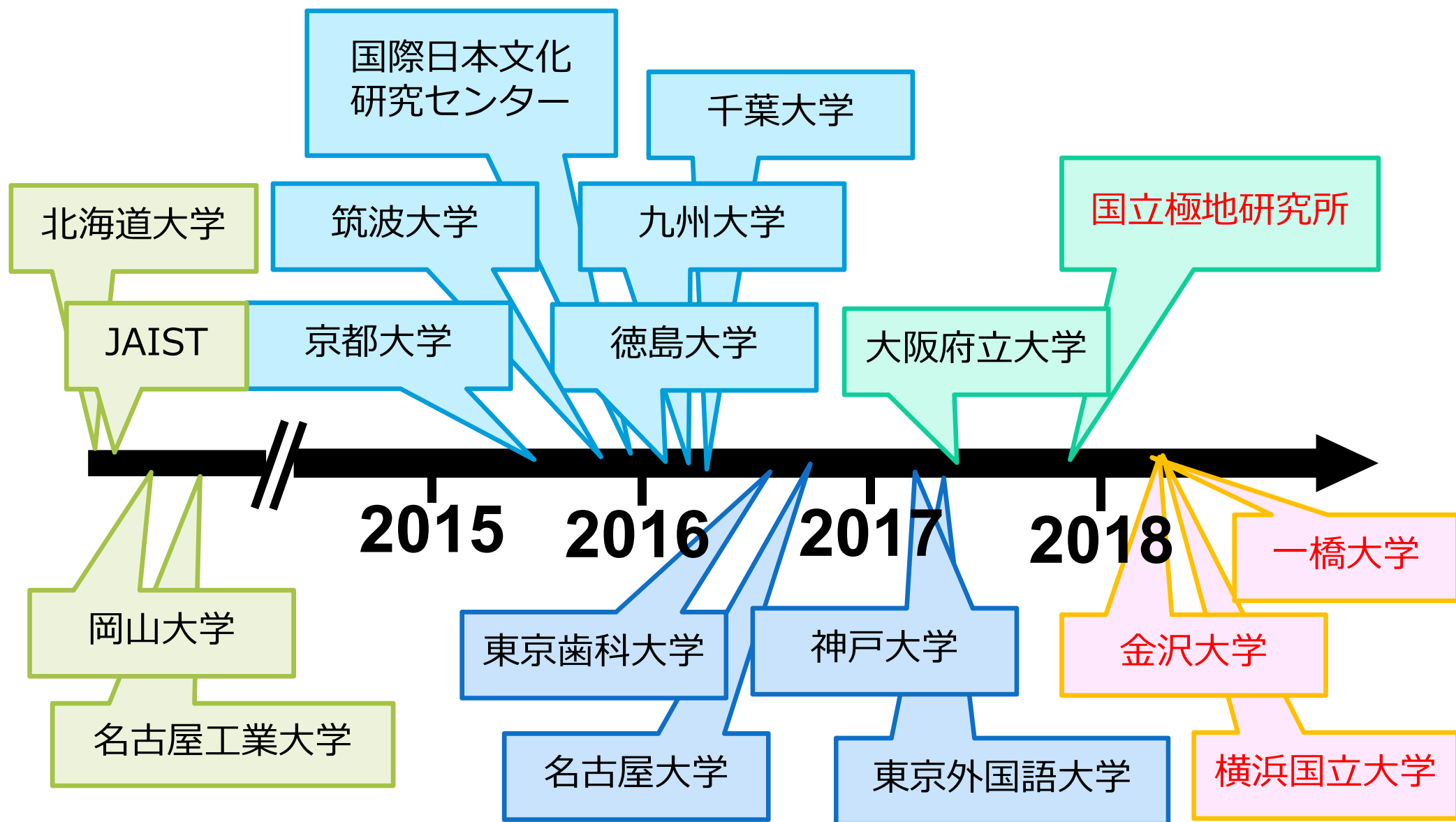
(初版の記述) 2017年1月末時点

(改訂版修正) 2018年1月末時点

# OA方針成果普及TFの成果物

- オープンアクセス方針策定ガイド改訂版  
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000043/>
- オープンアクセス方針リンク集  
[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=53](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53)
- オープンアクセス方針策定機関実態調査報告書  
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000042/>
- 第19回図書館総合展発表ポスター  
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000035/>

# 国内大学等のOA方針策定状況



## 2017年度の活動体制

- 島 文子 (北海道大学 / 主査、運営委員)
- 高橋 菜奈子 (千葉大学 / 運営委員)
- 上原 藤子 (沖縄科学技術大学院大学)
- 小原 智未 (横浜国立大学)

※所属は2018年3月現在

2018年3月末に  
OA方針成果普及TFの活動は完了します  
これまでのご協力に感謝します  
ご静聴ありがとうございました